

IASB 補足文書「Financial Instruments: Impairment (金融商品: 減損)」  
に対するコメント

国際会計基準審議会 (IASB) は、米国財務会計基準審議会 (FASB) と共同で開発された公開草案「金融商品: 償却原価および減損」の補足文書として、平成 23 年 1 月 31 日、標記を公表した。

経理委員会では、国際財務報告基準 (IFRS) と米国会計基準 (US GAAP) のコンバージェンスに向けた取り組みを評価するとした上で、減損のみならず分類・測定等金融商品の他の分野においても、両者がコンバージェンスへ向けた活動を継続することを強く希望するとした総論のもと、IASB より提示された質問事項について意見を取り纏め、平成 23 年 4 月 1 日、IASB 宛提出した。

---

2011 年 4 月 1 日  
社団法人 日本貿易会  
経 理 委 員 会

国際会計基準審議会 御中

補足文書「Financial Instruments: Impairment」に対するコメントについて

以下は、国際会計基準審議会 (IASB) の補足文書「Financial Instruments: Impairment」(公開草案への補足)に関する意見募集に対する社団法人日本貿易会経理委員会のコメントである。社団法人日本貿易会は、日本の貿易商社及び貿易団体を中心とする貿易業界団体であり、経理委員会は、同会において本邦会計基準及び国際会計基準への対応を主な活動内容の一つとしている。(末尾に当会の参加会社を記載。)

## I. 総論

補足文書の提案は、将来の期待信用損失を実効金利の計算に織り込むという既出の ED が要求している手法が実務的ではないため、その修正を意図していることについては歓迎する。但し、予想損失の期間按分など提案内容の一部については適切でないと考えられる点もあり、引き続き、慎重な検討を行って頂きたい。

なお、補足文書は、金融資産の減損に関して従来から異なる提案をしてきた IASB と FASB が、オープン・ポートフォリオの減損に限り共同提案の補足文書として共通のアプローチを提案するものであり、IFRS と US GAAP のコンバージェンスに向けた取り組みは評価する。減損のみならず分類・測定等金融商品の他の分野においても、両者がコンバージェンスへ向けた活動を継続することを強く希望する。

## II. 各論 (各質問に対するコメント)

## 【Question 1】

### 全 般

補足文書に示した減損の認識に関するアプローチはこの弱点（すなわち、信用損失の認識の遅れ）に対処していると考えるか。そう考えない場合、提案されているモデルをどのように修正すべきだと考えるか。その理由は何か。

補足文書に示した減損の認識に関するアプローチはこの弱点（すなわち、信用損失の認識の遅れ）に対処していると考え。但し、残存期間にわたる予想損失の規則的な配分やポートフォリオの区分など、共同提案の内容は必ずしも適切なアプローチではないと考える。

- 損失の遅延認識については企業がどのようにグッドブックからバッドブックへの振り替えに係る運用ルールを設定するかに大きく影響されると考える。結果としてバッドブックへの振り替え遅れに伴う、信用損失の認識遅れが発生することが想定される。

## 【Question 2】

### 範囲一オープン・ポートフォリオ

本補足文書で提案している減損モデルは、オープン・ポートフォリオと同様に、クローズド・ポートフォリオや他の金融商品について、少なくとも運用可能であるか。賛成又は反対の理由は何か。

本補足文書は提案しているアプローチがオープン・ポートフォリオに適合しているかどうかに関する意見を求めるものであるが、両審議会は、単一の資産及びクローズド・ポートフォリオに関する適合性についてのコメント及びすべての関連する金融資産について単一の減損アプローチとすることがどのくらい重要かに関するコメントも歓迎する。

オープン・ポートフォリオについて実務的なものとなっている前提であれば、クローズド・ポートフォリオや個別管理資産に対しても区別なく、全ての金融資産に一律に適用すべきと考える。

- しかしながら、少なくとも金融機関以外に減損損失引当金を期間按分して計上する方法（第2項(a)(i)）を強いることは実務的ではないなど、提案内容の一部については適切でないと考えている。
- 本補足文書は、金融機関等で一般的なオープン・ポートフォリオにおける貸付金等に対する減損に限って、当初提案された公開草案通りの実務処理が困難であるという背景から再検討を始めたものである。事業会社ではこのようにオープン・ポートフォリオの貸付金等が重要となることは少ないと考えられることから、単一の減損アプローチを開発すること自体を目的とするのではなく、貸付金等が重要でない場合の実務上の簡便処理を選択できることを明記頂きたい。
- 実効金利の計算と信用損失の考慮を分離するアプローチに関しては全ての金融資産に単一の共通のアプローチとしていただきたい。
- 一般の事業会社にとって重要な金融資産である短期の売掛金等に関しては、IASBの収益認識の公開草案において収益の測定時に信用リスクを考慮する提案があり、短期の売掛金等に関しては、収益認識プロジェクトではなく、金融商品会計において検討すべき課題として取り扱いたい。

その上で、契約上も金利が明示されない短期の売掛金等については時間的価値や信用リスクに重要性はないことから、簡便的な取り扱いを要請する。

- ▶ 非金融機関にとっては、「オープン・ポートフォリオ」・「クローズド・ポートフォリオ」という概念に全く馴染がなく、本補足文書の Appendix A の定義、あるいは B1 に記載されている定義や説明だけでは、保有する金融資産グループが「オープン・ポートフォリオ」と「クローズド・ポートフォリオ」のどちらに該当するのかさえ判断が困難である。また、仮に両者の定義が明確にされ、どちらかに強いて分類できるとしても、企業がそのような区別で債権を管理していない以上、会計処理を区別する理由もない。従って、非金融機関にも適用される当会計基準にこのような概念を織り込むのは不適切であり、「オープン・ポートフォリオ」・「クローズド・ポートフォリオ」の区別に基づいた会計基準の設定は避けるべきと考える。

### 【Question 3】

#### 信用損失の認識の区分（第 2 項、第 3 項及び B2 項から B4 項）

「グッドブック」の中の金融資産については、上述のようなアプローチで減損引当金を認識することが適切であることに同意するか。賛成又は反対の理由は何か。

同意しない。

- ▶ 予想可能な将来の予想損失を一時に計上する方法（第 2 項(a) (ii)）のみによるアプローチを求める。金融機関以外の企業において最終的な予想損失の見積もりは困難であるため、減損損失引当金を期間按分して計上する方法（第 2 項(a) (i)）の計算を常に強いることは実務的ではない。金融機関においても、予想損失を一時に計上する方が各種規制との親和性が得られる。
- ▶ 予見可能な将来の期間の意味する所が不明確である。それを超えた期間についても、損失を合理的に見積もれるのであれば、その期間も予見可能となるのではないか。オープン・ポートフォリオの損失予想は格付別の累積ベースのデフォルト率で計算するのが通常と考えられるが、その場合予見可能な期間と債権の残存期間とをどのように分けて考えれば良いのか分からない。
- ▶ また、仮に公開草案が原案通りの内容となる場合は、財務諸表への重要な影響がない場合には、実務上の簡便法を適用できるよう配慮願いたい。

### 【Question 4】

#### 信用損失の認識の区分（第 2 項、第 3 項及び B2 項から B4 項）

提案している期間比例配分の減損引当金算定のアプローチは運用可能か。賛成又は反対の理由は何か。

提案されている期間比例配分の減損引当金算定のアプローチは運用可能ではない。

- ▶ 金融機関以外の企業において最終的な予想損失の見積もりは困難であるため、減損損失引当金を期間按分して計上する方法（para2(a) (i)）の計算を常に強いることは実務的ではない。

### 【Question 6】

### 信用損失の認識の区分（第2項、第3項及びB2項からB4項）

減損引当金算定の目的上2つのグループ（すなわち、「グッドブック」と「バッドブック」）を区別するという要求は、明確に記述されているか。そうでないとすれば、どのようにしてもっと明確に記述できるか。

不明確と考える。

- 第3項の記述のみでは、実務に相当なばらつきが発生することが予想される。
- 投資元本の回収が目的となった時点でオープン・ポートフォリオとして管理し続けることは考えにくい。オープン・ポートフォリオで管理されるバッドブックについて設例の拡充を求める。
- 我々非金融機関の債権管理実務では、オープン・ポートフォリオとクローズド・ポートフォリオという区分ではなく、問題債権として個別に引き当てるか、それ以外か（類似の債権毎に一括の貸倒率を乗じる場合が多い）で区分して管理するのが一般的である。そして、本補足文書で提案されているバッドブックの会計処理は、個別に引き当てる場合の会計処理として適切と考えられ、一方、本補足文書で提案されているグッドブックの会計処理は、それ以外の場合の会計処理として適切と考えられる。従って、グッドブックとバッドブックの区別については、「一般的には、債務者の信用状態や返済状況に問題があるなどの理由により、企業が個別に減損額を見積もるような債権についてはバッドブックに該当し、それ以外の債権はグッドブックに該当する。」という旨を含めることにより、両者の区別が明確になるとともに、非金融機関の債権管理方法と会計処理とが整合し、より望ましい結果になるとの提案もある。

### 【Question 7】

### 信用損失の認識の区分（第2項、第3項及びB2項からB4項）

減損引当金算定の目的上2つのグループ（すなわち、「グッドブック」と「バッドブック」）を区別するという要求は、運用可能あるいは監査可能なものか。そうでないとすれば、どのようにしてもっと運用可能あるいは監査可能にできるか。

可能であるが、以下の点が懸念される。

- 第3項の基準のみでは、実務に相当なばらつきが発生することより、企業の設定したルールに基づく運用となることが予想され、財務諸表作成者の会計実務も会計監査も企業の運用に基づかざるを得ないと考える。

### 【Question 8】

### 信用損失の認識の区分（第2項、第3項及びB2項からB4項）

減損引当金算定の目的上2つのグループ（すなわち、「グッドブック」と「バッドブック」）を区別するという要求事項案に同意するか。同意しない場合、どのような要求事項を提案するか。その理由は何か。

同意しない。

- 金融資産を区分することなく予測可能な将来期間の期待損失を貸倒引当金として認識する方が実務的に簡便的である。また将来的に回収可能性のある資産を財政状態計算書に計上する

ことになり IFRS の概念フレームワークに合致し、財務諸表利用者にとって有用であると考えられる。

- ▶ バッドブックへの分類が、企業が実際に金融資産への投資額の回収に向けて行動を起こす時点である場合、バッドブックで求められている「存続期間における期待信用損失の全額」とグッドブックで求められている「予測可能な将来における予想損失の全額」とに差異はないと考える。
- ▶ 同程度の信用度合い等の合理的な方法により金融資産を区分し、実務に即した予想損失の見積り方法をそれぞれ定めることは、企業の内部管理目的上の運用方法としてはあり得るものとする。しかしながら会計処理そのものをそれぞれ定めることは、その区分に企業の恣意性が入る余地を残し、かつ企業間の比較可能性を損なうものとする。
- ▶ グッドブックとバッドブックに区分したうえで、バッドブックはバッドブックでの計算が必要となり、それに加えて特にグッドブックでは時間比例による金額と最低計上額のフロアーを計算するプロセスが必要となるため、事業会社にとっては実務対応面でかなりの負荷が想定される。そのため 2 つのグループに区分される場合であっても、事業会社には簡便的な処理を容認するよう、検討いただきたい。

#### 【Question 9】

##### 最低限の減損引当金（第 2 項(a)(ii)）

両審議会は、このモデルで要求されることとなる最低引当金額（フロアー）についてコメントを募集している。特に、次の論点についてである。

- (a) 「グッドブック」に関する減損引当金についてフロアーを要求するという提案に同意するか。賛成又は反対の理由は何か。
- (b) これに代えて、早期に損失が発生するパターンへの証拠がある状況にのみ、「グッドブック」に関する減損引当金についてのフロアーを企業に要求すべきだと考えるか。
- (c) 賛成の場合、さらに最低引当金額を予見可能な将来（12 か月以上）に発生が予想される損失を基礎として算定すべきであることに同意するか。賛成又は反対の理由は何か。反対の場合には、最低引当金額をどのように算定するのがよいか。その理由は何か。
- (d) 予見可能な将来に関して、予想損失の見積りを作成する際に考慮した期間は、経済状況の変化に基づいて変化するか。
- (e) 予見可能な将来の期間（信用減損モデルの目的上の）は、通常は 12 か月以上の期間だと考えるか。賛成又は反対の理由は何か。回答の根拠となるデータ（これに当てはまると考えられる具体的なポートフォリオの詳細を含む）を示していただきたい。
- (f) 予見可能な将来の期間が通常は 12 か月以上の期間であることに賛成の場合、比較可能性を高めるために、「フロアー」の要求に基づいて認識される信用減損の金額を算定する際の「シーリング」を設定すべきだと考えるか（例えば、企業の報告日から 3 年以内）。その場合、回答の根拠となるデータ又は理由を示していただきたい。

##### (a)

フロアーの概念を適用することで、フロアーの額が期間に比例配分した予想信用損失額を上回ることが想定される場合に、損失の認識時期の遅れを回避できると考えるが、以下の理由により同

意しない。

- ▶ 非金融機関に減損損失引当金を期間按分して計上する方法（第2項(a)(i)）を強いることは実務的ではない。第2項(a)(ii)のみによるアプローチを求める。
- ▶ 提案の内容では常に2つの損失予想を見積もらなければならない、実務への負担が大きい。フロアーを設定することは債権の当初認識時に損失を認識することとなり、合理性にかける。12ヶ月程度の近未来に損失予想が大幅に上昇することが予想されるポートフォリオ（つまりフロアーが発動されるポートフォリオ）は、既にグッドブックではなく、バッドブックであるとして扱うこととするなど、グッドブックの実務は簡単にしておくべきと考える。

(b)

常に第2項(a)(i)および(ii)のいずれも計算することを求めるよりは実務的と考える。

(c)

同意しない。

少なくとも12カ月より短くないというブライトラインを設ける数値の根拠はない。金融機関に限定したオープン・ポートフォリオの例外的な取り扱いということであれば、財務諸表作成の実務上も現実的であるが、単一の減損モデルの構築を目指す前提で数値基準を設ける案には反対する。各社で管理体制の精度が異なることを前提に、定量的な期間の基準化は不要と考える。

(d)

同意する。

(e)

各社で管理体制の精度が異なるため、予想可能な将来の期間が主に12ヶ月超になるとは限らないと考える。

#### 【Question 12】

##### IASB と FASB が別々に開発したアプローチ

償却原価で測定する金融資産のオープン・ポートフォリオについてのIASBのアプローチを、この文書で提案している共通の提案よりも良いと考えるか。その理由又はそう考えない理由は何か。この特定のIASBのアプローチを好まない場合、IASBのアプローチの全体的な考え方（すなわち、当該資産の存続期間にわたって予想信用損失を認識する）は良いと考えるか。その理由又はそう考えない理由は何か。

Q13のコメントに記載したとおりFASBのアプローチを支持するが、IASBのアプローチと共通の提案との比較では、どちらかという共通の提案とする方が望ましい。但し、減損損失引当金を期間配分するという概念には同意しない。

#### 【Question 13】

##### IASB と FASB が別々に開発したアプローチ

この文書の範囲内の資産についてのFASBのアプローチを、この文書で提案している共通の提案よりも良いと考えるか。この特定のFASBのアプローチを好まない場合、FASBのアプローチの全体的な考え方（すなわち、予見可能な将来に発生すると予想されている信用損失を認識する）は良いと考えるか。その理由又はそう考えない理由は何か。

予見可能な将来に発生が予想される期待損失を即時に純損益として認識するという FASB のアプローチを支持する。

- ▶ FASB によるアプローチにあるように、金融資産を区分することなく予測可能な将来期間の期待損失を貸倒引当金として認識する方が実務的に簡便的であり、また将来的に回収可能性のある資産を財政状態計算書に計上することになり IFRS の概念フレームワークに合致し、財務諸表利用者にとって有用であると考えられる。また、FASB のアプローチは、信用損失を期間配分しない点において現行の処理と整合しており、新しいアプローチによる実務的な混乱は少ないものと思われる。一方、IASB のアプローチにある期待損失を期間配分する方法は損失が繰り延べられ、実務的にも煩雑である。加えて補足文書にあるように処理の多様性を認めるならば比較可能性も阻害されるため、この処理による費用対効果は乏しいものとする。
- ▶ また、オープン・ポートフォリオのみならず、クローズド・ポートフォリオや個別の金融資産についても FASB のアプローチを適用することが考えられる。
- ▶ 一方でポートフォリオ取得当初認識時に一括で損失を認識することは合理性に欠けることから、若いポートフォリオの場合においては、例えば FASB のアプローチの金額に到達するまでは期間比例配分のアプローチで引当を積上げていくという考え方もある。

#### 【Question 14Z】

##### 金融資産の減損

実効金利の算定に予想信用損失を織り込んだ当初の IASB の提案とは対照的に、実効金利の算定は、予想損失についての考慮とは切り離すべきであるということに同意するか。賛成又は反対の理由は何か。

同意する。

#### 【Question 17Z】

##### 表示

提案されている表示の要求事項に同意するか。同意しない場合、代わりにどのような表示が良いと考えるか。その理由は何か。

同意する。

#### 【Question 18Z】

##### 開示

- (a) 提案されている開示要求に同意するか。同意しない場合、どの開示要求に反対なのか、その理由は何か。
- (b) 提案されている減損モデルについて他にどのような開示が良いと考えるか（提案されている開示への追加でも代替のものでも良い）。その理由は何か。

同意しない。

開示に関しては現状の IFRS に比較して大幅に拡充するものとなることから、企業側からすれば多くのデータを収集・分析し、それに伴いシステムを大幅変更する必要が出てくるものと予想される。財務諸表利用者の有用性との比較においてコストと便益が見合うか、慎重に検討いただきたい。

い。

- 特に、Z8 項で過去 4 期分のデータの開示が要求されているが、他の表示・開示は比較情報として過去 1 期分のみ要求されていることと比較してもバランスを大きく逸しており、財務諸表作成者にとって過度な負担であり、受け入れられない。

### 【Question 19Z】

#### 開 示

金融資産が 2 つのグループ間で振り替えられる場合に、金融資産の経過年数を反映する関連した引当金の金額を振り替えるという提案に同意するか。賛成又は反対の理由は何か。同意しない場合、代わりに金融資産の予想信用損失のすべてを振り替える又は全く振り替えない方が良いと考えるか。

Q13 にあるように FASB のアプローチを支持するため、同意しない。

### III. その他

(損失の見積もりについて)

B5 項に規定されているように損失の見積もりを測定日以降に発生するかもしれない事象を考慮して行うことは、見積もりに過度な恣意性が入る余地を生じさせると同時に、監査人への説明においても疑義を生じさせる部分であり、実務的ではない。

以 上



## 社団法人日本貿易会

〒105-6106

東京都港区浜松町 2-4-1

世界貿易センタービル 6階

URL <http://www.jftc.or.jp/>

## 経理委員会委員会社

CBC 株式会社

蝶理株式会社

阪和興業株式会社

株式会社日立ハイテクノロジーズ

稲畑産業株式会社

伊藤忠商事株式会社

岩谷産業株式会社

JFE 商事ホールディングス株式会社

兼松株式会社

興和株式会社

丸紅株式会社

三菱商事株式会社

三井物産株式会社

長瀬産業株式会社

野村貿易株式会社

神栄株式会社

双日株式会社

住金物産株式会社

住友商事株式会社

豊田通商株式会社

ユアサ商事株式会社

April 1, 2011  
Accounting & Tax Committee  
Japan Foreign Trade Council, Inc.

To the International Accounting Standards Board

Comments on Supplement “Financial Instruments: Impairment”

The following are the comments of the Accounting & Tax Committee of the Japan Foreign Trade Council, Inc. (JFTC) made in response to the solicitation of comments regarding the International Accounting Standards Board Supplement “Financial Instruments: Impairment”. JFTC is a trade-industry association with trading companies and trading organizations as its core members, while the principal function of its Accounting & Tax Committee is to respond to developments in domestic and international accounting standards. (Member companies of the Accounting & Tax Committee of JFTC are listed at the end of this document.)

**I. General Comments**

The intent of the proposals of the Supplement to the Exposure Draft is to revise the procedures contained in the original Exposure Draft for including expected credit losses in the computation of effective interest rate, which was considered to be impractical. We welcome this intent of the Supplement. However, we believe that some aspects of the proposals are not appropriate, such as the time-proportional approach to expected losses. Therefore, we request continued careful deliberations.

Given the different proposals that have been made by the IASB and the FASB concerning impairment of financial assets, we appreciate that the Supplement endeavors to promote convergence between IFRS and US GAAP by presenting a joint supplementary document proposing a common approach on impairment of open portfolios. However, we strongly request that the two boards continue their efforts toward convergence, not only in the area of impairment but also in other areas related to financial instruments, such as classification and measurement.

## II. Specific Issues (Comments on Questions)

### Question 1

Do you believe the approach for recognition of impairment described in this supplementary document deals with this weakness (ie delayed recognition of expected credit losses)? If not, how do you believe the proposed model should be revised and why?

We believe that the approach for recognition of impairment described in the Supplement deals effectively with the weakness in question (i.e., delayed recognition of expected credit losses). However, we believe that some approaches contained in the joint proposal are not necessarily appropriate, particularly with regard to time-proportional recognition of expected losses over the remaining life of the portfolios and with regard to portfolio categories.

- Delayed recognition of expected losses will be affected significantly by the rules adopted by entities regarding transfer from “good book” to “bad book.” Consequently, any delay in transfer to the bad book can be expected to result in delayed recognition of credit losses.

### Question 2

Is the impairment model proposed in the supplementary document at least as operational for closed portfolios and other instruments as it is for open portfolios? Why or why not?

Although the supplementary document seeks views on whether the proposed approach is suitable for open portfolios, the boards welcome any comments on its suitability for single assets and closed portfolios and also comments on how important it is to have a single impairment approach for all relevant financial assets.

If the assumption is that the proposed impairment model is practical for open portfolios, it is our belief that the model should be applied to all financial assets, including closed portfolios and individually managed assets.

- However, we believe that certain portions of the proposal are not practical, especially, but not limited to, requiring entities other than financial institutions to determine impairment allowances on a time-proportional basis (paragraph 2(a)(i)).
- The treatment of impairment of loans and other financial assets contained in open portfolios is an issue commonly faced by financial institutions. The Supplement limits its reconsideration to this single point because the proposal contained in the original Exposure Draft was deemed difficult to adopt for practical and administrative reasons. We, however, believe that loans and other financial assets contained in open portfolios are seldom of any material importance in the case of nonfinancial companies. Therefore, instead of identifying the development of a single impairment approach as the goal, we request that explicit guidance be given for choosing a simplified treatment in cases where such assets are immaterial.
- The separation of the computation of effective interest rate from the consideration of credit losses should be adopted as a unified approach applicable to all financial assets.
- Short-term trade receivables constitute an important financial asset for nonfinancial companies in general. The IASB Exposure Draft *Revenue from Contracts with Customers* proposes that credit risk be taken into account when measuring revenue. We request that short-term trade receivables be treated as a subject for consideration under financial instruments accounting and not as part of the Revenue Recognition Project.

Furthermore, we request the inclusion of simplified treatment of short-term trade receivables with no contractually determined rate of interest on the grounds that such items have no material impact on time value or credit risk.

- Nonfinancial entities are totally unfamiliar with the concepts of “open portfolio” and “closed portfolio.” The definition found in Appendix A of the Supplement or the definition and explanations given under paragraph B1 thereof do not provide sufficient guidance for judging whether a group of financial assets should be classified under “open portfolio” or “closed portfolio.” However, even if clear definitions of both types of portfolios were provided and entities were thereupon able to classify their financial assets, insofar as entities do not actually manage their receivables under these two categories, there is no reason to establish separate accounting treatments. Therefore, we believe it is not appropriate to include such concepts in accounting standards

that are applicable to nonfinancial entities. Hence, the adoption of accounting standards based on the separation of “open portfolio” and “closed portfolio” should be avoided.

### Question 3

Do you agree that for financial assets in the ‘good book’ it is appropriate to recognise the impairment allowance using the approach described above? Why or why not?

We do not agree with this proposal.

- We support an approach that only allows onetime recognition of credit losses expected to occur within the foreseeable future (paragraph 2(a)(ii)). Because it is difficult for nonfinancial companies to estimate their final expected losses, it is not practical to at all times mandate a method requiring computation of impairment allowances on a time-proportional basis (paragraph 2(a)(i)). As for financial institutions, onetime recognition of expected losses is compatible with various existing regulations.
- It is unclear what is meant by foreseeable future. If losses can be rationally estimated for the period beyond the foreseeable future, should not this period also be included in the foreseeable future? Expected losses in an open portfolio would normally be computed using the cumulative default rate for each rating. It is unclear how the foreseeable future period and the remaining life of the receivable can be treated separately.
- In the event that the proposals of the Exposure Draft are adopted as they currently stand, we request that the use of simplified methods be allowed in cases where there is no material effect on financial statements.

### Question 4

Would the proposed approach to determining the impairment allowance on a time-proportional basis be operational? Why or why not?

The proposed approach to determining the impairment allowance on a time-proportional basis is impractical.

- Because it is difficult for nonfinancial companies to estimate their final expected losses, it is not practical to at all times mandate a method requiring computation of impairment allowances on a time-proportional basis (paragraph 2(a)(i)).

## Question 6

Is the requirement to differentiate between the two groups (ie ‘good book’ and ‘bad book’) for the purpose of determining the impairment allowance clearly described? If not, how could it be described more clearly?

We find the proposal to be unclear.

- We anticipate considerable disparity and unevenness in application if no additional guidance is provided beyond the content of paragraph 3.
- It is difficult to think that an entity would continue to manage an asset in an open portfolio after recovery of principal has become its objective. We request additional examples of bad book managed in an open portfolio.
- As nonfinancial entities, we do not classify our receivables under open portfolio and closed portfolio. Rather, the standard approach is to determine allowances for individual problem receivables or to manage receivables under some other classifications (a common method being the use of a flat default rate for each group of similar receivables). We find the accounting treatment of bad book proposed in the Supplement to be appropriate for cases where allowances are determined for individual receivables, and we find the accounting treatment of good book proposed in the Supplement to be appropriate for all other cases. Therefore, we submit the following proposal regarding classification by good book and bad book. “Generally, any receivables for which impairment losses are individually estimated due to problems with the debtor’s credit or repayment conditions should be classified under bad book, and all other receivables should be classified under good book.” We believe the inclusion of such a statement will generate more desirable results for the following reasons. This approach would clarify the difference between good book and bad book, and would achieve consistency between the receivable management methods of nonfinancial entities and accounting standards.

## Question 7

Is the requirement to differentiate between the two groups (ie 'good book' and 'bad book') for the purpose of determining the impairment allowance operational and/or auditable? If not, how could it be made more operational and/or auditable?

Although it is operational, the following concerns remain.

- Considerable disparity and unevenness will occur in application if no further guidance is provided beyond the criteria set out in paragraph 3. In such a case, entities can be expected to operate according to rules that they themselves establish, and the preparers of financial statements and auditors will have no choice but to perform their accounting and auditing functions in accordance with these internal rules.

## Question 8

Do you agree with the proposed requirement to differentiate between the two groups (ie 'good book' and 'bad book') for the purpose of determining the impairment allowance? If not, what requirement would you propose and why?

We do not agree with this proposal.

- From an operational perspective, it will be simpler not to differentiate between financial assets but to recognize expected losses during the foreseeable future in bad debt allowances. Moreover, recognizing collectable assets in the statement of financial position is consistent with the *Conceptual Framework for Financial Reporting* and will prove useful to users of financial statements.
- Regarding classification under bad book, when an entity takes action toward recovery of its investment in a financial asset, we believe there is no difference between “total credit losses expected to occur over the life of financial assets” as required of bad book, and “total credit losses expected to occur over the foreseeable future” as required of good book.
- Classification of financial assets by similar levels of credit risk or some other form of rational method, and the establishment of methods for estimating

expected losses in a manner that is consistent with actual practices are acceptable as management methods for internal control purposes. However, establishing separate accounting rules for each group of financial assets would create room for arbitrary judgment on the grouping and would also undermine comparability among entities.

- It is expected that the required procedures would entail considerable administrative burdens for nonfinancial companies. First, entities would be required to differentiate between good book and bad book. Second, computations would have to be done separately for the bad book. Third, time-proportional impairment allowances and minimum allowance amounts (floor) would have to be computed for the good book. Therefore, even if the two groups are differentiated, we request that consideration be given to allowing nonfinancial companies to apply simplified treatments.

### Question 9

The boards are seeking comment with respect to the minimum allowance amount (floor) that would be required under this model. Specifically, on the following issues:

- (a) Do you agree with the proposal to require a floor for the impairment allowance related to the ‘good book’? Why or why not?
- (b) Alternatively, do you believe that an entity should be required to invoke a floor for the impairment allowance related to the ‘good book’ only in circumstances in which there is evidence of an early loss pattern?
- (c) If you agree with a proposed minimum allowance amount, do you further agree that it should be determined on the basis of losses expected to occur within the foreseeable future (and no less than twelve months)? Why or why not? If you disagree, how would you prefer the minimum allowance to be determined and why?
- (d) For the foreseeable future, would the period considered in developing the expected loss estimate change on the basis of changes in economic conditions?
- (e) Do you believe that the foreseeable future period (for purposes of a credit impairment model) is typically a period greater than twelve months? Why or why not? Please provide data to support your response, including details of particular portfolios for which you believe this will be the case.



(f) If you agree that the foreseeable future is typically a period greater than twelve months, in order to facilitate comparability, do you believe that a ‘ceiling’ should be established for determining the amount of credit impairment to be recognised under the ‘floor’ requirement (for example, no more than three years after an entity’s reporting date)? If so, please provide data and/or reasons to support your response.

(a)

In cases where the floor amount is anticipated to exceed time-proportional expected credit losses, we understand that the application of the concept of floor will eliminate delayed recognition of expected credit losses. However, we do not agree with the proposal for the following reasons.

- For nonfinancial entities, it not practical to mandate a method requiring computation of impairment allowances on a time-proportional basis (paragraph 2(a)(i)). Therefore, we support an approach based only on paragraph 2(a)(ii).
- The proposal would require entities to constantly estimate two expected losses, which would entail heavy administrative burdens. Establishment of a floor means that losses are recognized at the time of initial recognition of the receivable, which lacks rationality. We believe that administrative procedures related to the good book should be simplified. For instance, portfolios for which a sharp increase in expected losses is estimated for the immediate future period of about twelve months (i.e., portfolios to which floor is applicable) should already at that point be removed from the good book and transferred to the bad book.

(b)

This approach is more practical than having to constantly compute the values of both paragraph 2(a)(i) and (ii).

(c)

We do not agree with the proposal.

There is no quantitative ground for establishing a bright line of at least twelve months. If this is proposed as an exceptional treatment of open portfolios limited to financial institutions only, this would be a practical approach for the

preparation of financial statements. However, we oppose the proposal for establishing quantitative criteria predicated on the purpose of developing a single impairment model.

We believe it is not necessary to adopt a quantitative criterion for the length of period on the assumption that the level of precision in management and control systems varies among entities.

(d)

We believe this answer is “Yes”.

(e)

Because the level of precision in management and control systems varies among entities, we feel it cannot be said that the foreseeable period will typically exceed twelve months.

**Question 12**

Would you prefer the IASB approach for open portfolios of financial assets measured at amortised cost to the common proposal in this document? Why or why not? If you would not prefer this specific IASB approach, do you prefer the general concept of the IASB approach (ie to recognise expected credit losses over the life of the assets)? Why or why not?

As indicated in our response to Question 13, we support the FASB approach. Between the IASB approach and the joint proposal, we feel that the joint proposal is more desirable. However, we do not agree with the determination of impairment allowances on a time-proportional basis.

**Question 13**

Would you prefer the FASB approach for assets in the scope of this document to the common proposal in this document? Why or why not? If you would not prefer this specific FASB approach, do you prefer the general concept of this FASB approach (ie to recognise currently credit losses expected to occur in the foreseeable future)? Why or why not?

We support the FASB approach for immediate recognition in net income of expected credit losses expected to occur in the foreseeable future.

- As indicated in the FASB approach, for operational purposes, it is simpler and more convenient not to differentiate between financial assets but to recognize expected losses for the foreseeable future in bad debt allowances. Furthermore, recognizing collectable assets in the statement of financial position is consistent with the *Conceptual Framework for Financial Reporting* and will prove useful to users of financial statements as well. In the FASB approach, credit losses are not subject to time-proportional treatment, which is consistent with current practices. For this reason, we believe confusion associated with the introduction of a new approach would be minor. On the other hand, the IASB approach of time-proportional treatment of expected losses will defer losses, which will be complicated and troublesome in actual practice. Furthermore, if a variety of treatments were to be permitted as indicated in the Supplement, comparability would be undermined. We therefore believe that the expected benefits would not justify the costs associated with this treatment.
- The FASB approach could be applied not only to open portfolios but also to closed portfolios and individual financial assets.
- On the other hand, collectively recognizing losses upon initial recognition of acquired portfolios lacks rationality. For newer portfolios, one possibility would be, for example, to accumulate allowances on a time-proportional basis until the amount based on the FASB approach is reached.

**Question 14Z**

Do you agree that the determination of the effective interest rate should be separate from the consideration of expected losses, as opposed to the original IASB proposal, which incorporated expected credit losses in the calculation of the effective interest rate? Why or why not?

We agree with this proposal.

**Question 17Z**

Do you agree with the proposed presentation requirements? If not, what presentation would you prefer instead and why?

We agree with this proposal.

### **Question 18Z**

- (a) Do you agree with the proposed disclosure requirements? If not, which disclosure requirements do you disagree with and why?
- (b) What other disclosures would you prefer (whether in addition to or instead of the proposed disclosures) for the proposed impairment model and why?

We do not agree with this proposal.

The scope of disclosure is significantly larger than the current IFRSs. From the perspective of entities, this means collecting and analyzing a larger body of data, which will require major changes in current computer systems. We request that the cost-benefit performance of this proposal be carefully examined with reference to usefulness to users of financial statements.

- Paragraph Z8 requires disclosure of data from the previous four annual periods. This represents a serious imbalance with other presentations and disclosures that, for comparison purposes, require data from only one previous annual period. The proposal places an excessive burden on preparers of financial statements, and cannot be accepted.

### **Question 19Z**

Do you agree with the proposal to transfer an amount of the related allowance reflecting the age of the financial asset when transferring financial assets between the two groups? Why or why not? If not, would you instead prefer to transfer all or none of the expected credit loss of the financial asset?

We do not agree with this proposal because we support the FASB approach as indicated in our response to Question 13.

### **III. Others**

(Loss estimates)

Paragraph B5 states that estimation of losses should take into account future events that may occur after the measurement date. If adopted, this provision would make room for an excessive degree of arbitrariness in estimation. At the same time, this would raise doubts in explanations provided to auditors. For these reasons, we believe this proposal is impractical.

#### **Japan Foreign Trade Council, Inc**

World Trade Center Bldg. 6th Floor,  
4-1, Hamamatsu-cho 2-chome,  
Minato-ku, Tokyo 105-6106, Japan  
URL. <http://www.jftc.or.jp/>

#### **Members of Accounting & Tax Committee**

CBC Co., Ltd.  
Chori Co., Ltd.  
Hanwa Co., Ltd.  
Hitachi High-Technologies Corporation  
Inabata & Co., Ltd.  
ITOCHU Corporation  
Iwatani Corporation  
JFE Shoji Holdings, Inc.  
Kanematsu Corporation  
Kowa Company, Ltd.  
Marubeni Corporation  
Mitsubishi Corporation  
Mitsui & Co., Ltd.  
Nagase & Co., Ltd.  
Nomura Trading Co., Ltd.  
Shinyei Kaisha

Sojitz Corporation  
Sumikin Bussan Corporation  
Sumitomo Corporation  
Toyota Tsusho Corporation  
Yuasa Trading Co., Ltd.